

大柿ダム流域の水田水温と気温・日照時間の関係（１９９８年）

早期警戒情報においては、気温・日照時間・降水量が冷害危険度地帯別に過去７日間の移動平均で示されています。これらのデータと水田水温（午前９時測定）との関係を整理してみました。大柿ダム流域にもっとも近い監視地点アメダス浪江を使用しました。

１９９８年度は水温測定が日単位で測定されたため、過去７日間の移動平均を用いて関係を図示することにします。

１）日最高気温と水田水温の関係（図１参照）

- ・最高気温が２５度を越えたのは７月１日で、幼穂形成期よりかなり早い時期にあたる。
- ・７月１日以前においては、最高気温が２５度以下の時期では水田水温と最高気温との間には２，３度程度の差はあるが、両者はほぼ同値で推移した。
- ・最高気温が２５度を越えると、水田水温は最高気温よりも低く経過した。

水温（度）・日照時間

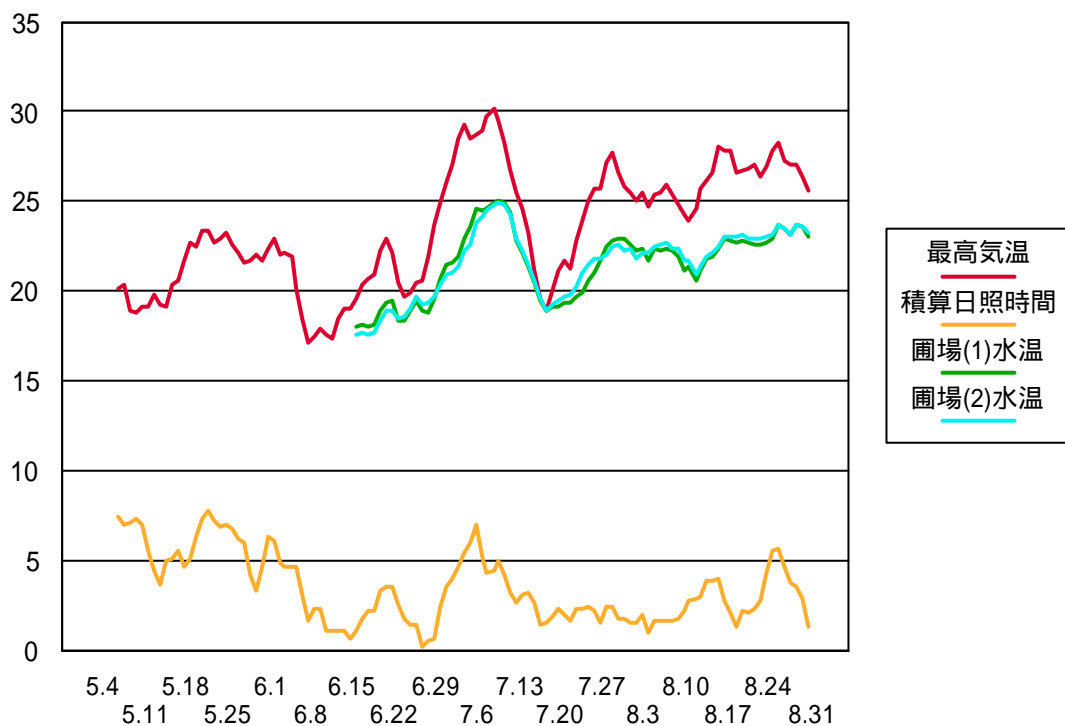


図１ アメダス浪江の最高気温と水田水温（午前９時）の推移
１９９８年度
過去７日間の移動平均

２）日最低気温と水田水温の関係（図２参照）

- ・最低気温が１７度を越えたのは６月３０日で、幼穂形成期よりかなり早い時期にあたる。

- ・水田水温は全期間を通して最低気温より高く推移した。

水温（度）・日照時間

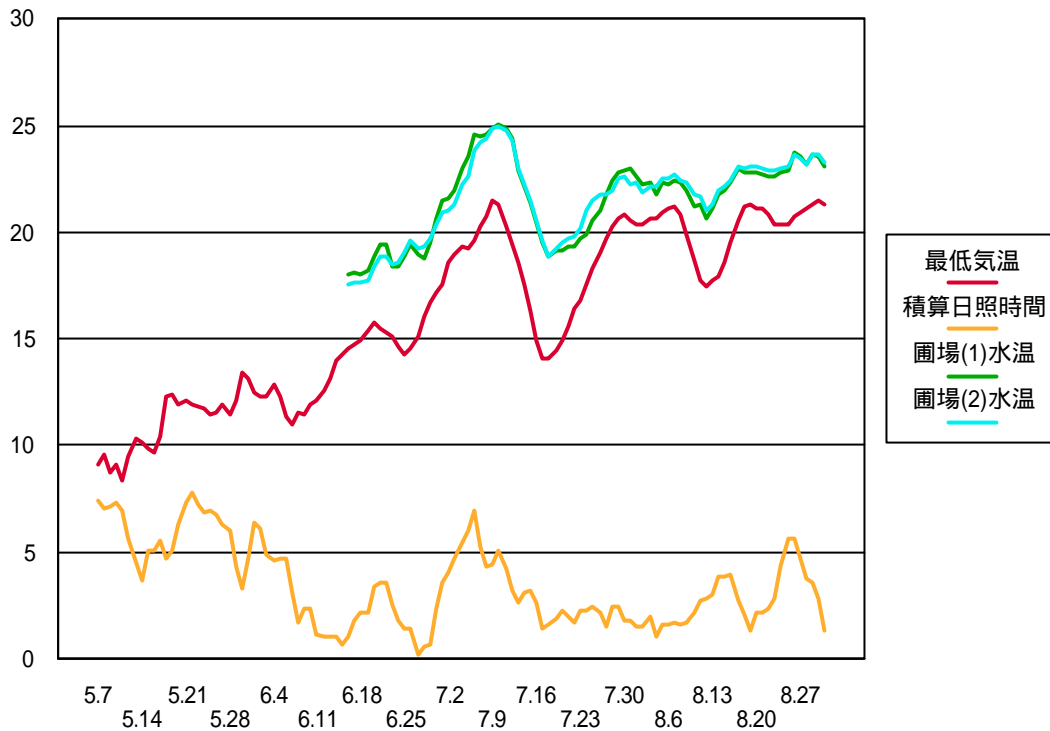


図2 アメダス浪江の最低気温と水田水温(午前9時)の推移
1998年度
過去7日間の移動平均

3) 日平均気温と水田水温の関係(図3参照)

- ・平均気温が20度を超えたのは6月29日で、幼穂形成期よりかなり早い時期にあたる。
- ・6月29日以降については、平均気温と水田水温は2, 3度程度の違いはあるが、同じような値で推移した。

水温（度）・日照時間

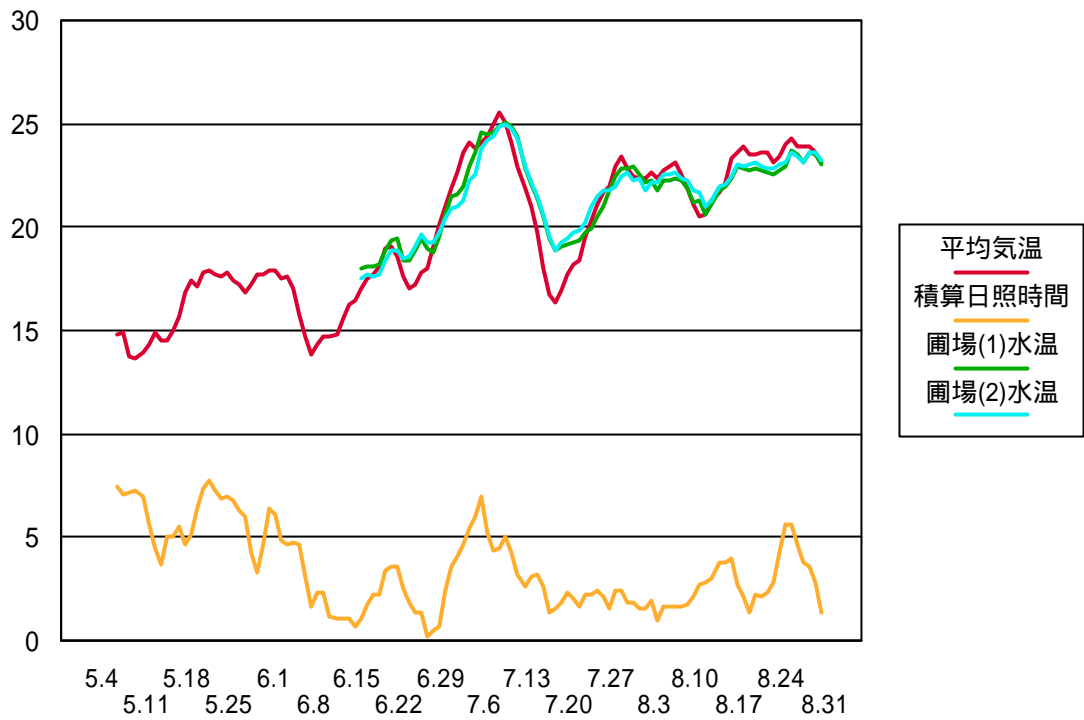


図3 アメダス浪江の平均気温と水田水温 (午前9時)の推移
1998年度
過去7日間の移動平均